統一協会と関係 自民28人公認

癒着未解明のまま

闇のTM文書

日本の主権侵害に加担

統一協会（世界平和統一家庭連合）の内部文書「TM特別報告」に、総選挙で自民党に公認された候補者のうち28人が、協会と関係ある議員として紹介されていることが本紙の調べで分かりました。文書によると、支援した議員らの選挙結果を韓鶴子（ハンハク）総裁に逐一報告していました。統一協会は韓総裁のもとで世界各国を宗教的に統治するために活動しています。そんな協会が自民党を通して日本政治に介入することは主権侵害にあたります。

この文書には、安倍晋三元首相、高市早苗首相、岸田文雄元首相をはじめ50人以上の国会議員経験者が出てきます。うち2月8日投開票の総選挙で自民党が公認した前職、元職は少なくとも28人います。

日本協会側が韓総裁に国会議員の状況を報告するのは、主に▽国政選挙の情勢と結果▽協会やダミー団体の大規模行事▽自民党総裁選と閣僚や党役員人事―の三つです。

2021年10月の総選挙後には、日本協会の徳野英治会長（当時）が韓総裁に、「約279名の自民党議員を中心とした国会議員を応援した」と報告。その上で安倍元首相や萩生田光一幹事長代行、山際大志郎元経済再生担当相を含む14人の政治家を「私たちと近いキーパーソン」として記載していました。

キーパーソンの一人とされた牧島かれん元デジタル担当相は、13年に韓総裁と面会して以降、協会と交流を重ねてきたとされています。本紙の取材に牧島氏は「総裁と面会した記録も記憶もない」としています。

協会関連行事では、19年に米国の投資家を招いた福岡市での講演会に沖縄1区候補の国場幸之助元国土交通副大臣と原田義昭元環境相が参加したとされています。

18年には統一協会のダミー団体「国際勝共連合」が設立50周年大会を開催。勝共連合の梶栗正義会長（当時）は、大会に現職国会議員は50人、代理の秘書らが44人参加したと誇らしげに紹介しています。高市内閣の小林茂樹文部科学副大臣もこの大会に参加し、感想を寄せたとされています。

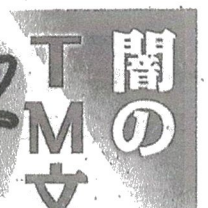
梶栗氏は大会に議員を招いを、教祖・文鮮明と妻の韓総裁の「思想と、み言（教えのこと）に基づいた政策が国政の場で展開されるよう環境を用意してきた」と述べています。協会の教えを日本の国政で実現するという露骨な表現です。

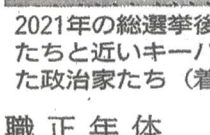
21年の自民党総裁選では、高市首相が安倍元首相の後継者として協会に期待されていました。文書は高市総裁誕生が「天の最大の願い」としています。

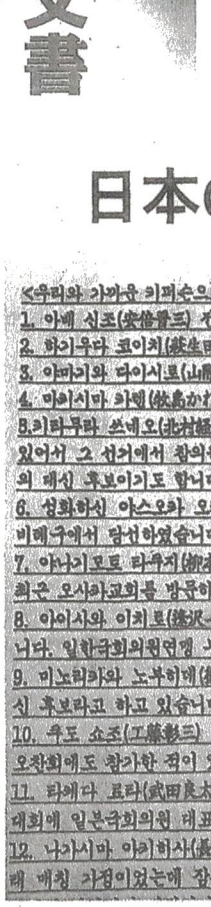
高市首相と自民党はTM特別報告の存在が発覚した後も、統一協会との癒着を解明しないまま公認してきました。総選挙でその姿勢が問われます。

（統一協会取材班）

➡記載された自民候補一覧⑭面



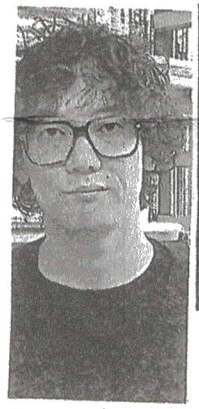




<ㅇ우리와 가까운 의퍼순으로 이번에 당선한 국회의원들>
1. 아베 신조(安倍晋三) 전 수상(67세) — 자민당 최고 고문
2. 하기우다 코이치(萩生田光一) (53세) — 경제산업대신(계
3. 야마기와 다이시로(山際大志郎) (53세) — 경제재생담당
4. 마키시마 카렌(牧島かれん) (41세) — 디지털대신(계속).
5.키타무라 쓰네오(北村経夫) (66세) — 참의원 전국비례구
있어서 그 선거에서 참의원 소선거구 의원으로 재당선. 선
의 대신 후보이기도 합니다.
6. 성화하시 아스오와 오히하루(塩崎恭治) 선생의 장남인
비례구에서 당선하였습니다.
7. 야나기모토 타쿠지(柳本卓治) 선생의 조카인 야나기모토
최근 오사카교회를 방문하여 부녀가 축복을 받았습니다.
8. 아이사와 이치로(逢沢一郎) (67세) — 오카야마현의 소
니다. 일한국회의원연맹 부회장. 일본-아프리카 국회의원연
9. 미노리카와 노부히데(御法川信英) (67세) — 일본 세계
시 후보라고 하고 있습니다.
10. 우도 소조(工藤彰三) (66세) — 나고야에서의 참어머니
오찬회에도 참가한 적이 있습니다.
11. 타데다 료타(武田良太) (59세) — 2016년 12월 미국
대회에 일본국회의원 대표로 참가. 2번의 대신 경험이 있
12. 나가시마 아키히사(長島昭久) (59세) — 토쿄 비례구
래 매칭 가정이었는데 잠시 교회를 떠난 시기가 있으며,

2021年の総選挙後、TM特別報告に「私たちと近いキーパーソン」と記載された政治家たち（着色は編集局）

希望伝える「赤旗」



左派の力

発揮の時

東大准教授 斎藤 幸平さん

ふれだいこ

ファースト
軍事費、財界、自分
――高市首相
台東・ほたる坂

この紙面は「しんぶん赤旗」の切り抜き記事です。他の新聞にはないスクープ満載です是非ご購読ください。

高市首相の解散はまったく大義がありません。国会論戦を経て予算が成立した4月以降には、高い支持率は維持できていないと考えたのでしょう。ある意味、追いつめられた焦りの裏返しで自分都合の自分ファーストの解散です。

今の自民党政治を継続させていけば、日本はさらに社会的、経済的に「停滞」すると思います。停滞が不満を増幅させて、「右派ポピュリズム」をますます台頭させてしまう。その先にあるのは社会の分断であり、外国人排斥であり、戦争への道だと懸念します。

高市自民党を勝たせてしまえば、日本政治の「全体主義化」が進んでしまいます。参政党の登場と、その後の高市政権の成立による自民党の右傾化。公明党の政権離脱と、立憲民主党を吸収するような新党の結成。党としては立憲民主党の方が圧倒的に大きいのに、原発の問題でも、安保の問題でも、公明党が優先されています。この状況の中で、問題を根本的にとらえる左派が果たす役割は大きいと思います。

新しく誕生した「中道改革連合」を含む政治の「全体主義化」に対して、しっかりと代わりとなるビジョンを出していくことが、民主主義と平和を守るための本来の「左派」の責務であり、実際の政治や社会運動の現場で左派として実践していくのが、共産党や社民党などの左派政党の役割だと思っています。

今後、資本主義の矛盾が大きくなり、激動の時代となる中で左派のビジョンが力を発揮すると思います。今が正念場です。左派のビジョンを明確にすれば、必ず国民の評価を得る時がやってくると思っています。